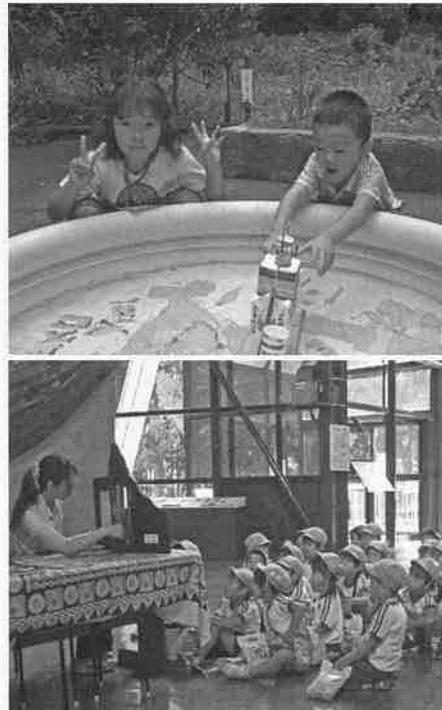


2011.09.01
No.365
(9・10月号)

福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

バルシステム神奈川ゆめコープの親子企画。工作教室にはおとなたちも夢中で船つくり（写真右）。進水式では歓声があがりました（左上）。紙芝居『トビウオのぼうやはぴょうきです』を読んでもらう、都内の保育園児たち（左下）

命を見つめた瞳

2011年9月23日～2012年3月20日

東日本大震災の傷跡癒えぬ夏休みシーズンでしたが、今年もレポート課題をかかえた中高校生たちや、自由研究の勉強にと訪れる親子などで展示館はにぎわいました。

夏休み恒例となつた親子教室「放射線をはかるう」と「牛乳パックで作る第五福竜丸工作教室」も開かれ、例年以上に放射線測定に、子どももおとなも熱中しました。

またこの夏は、生協や大学のゼミ、地方自治体主催の見学会での来館者が増えました。来館者は通算四八六万人となりました。

秋の企画展9月23日より

館内に設置されたアンケートをみると、年代を問わず「福島第一原発の事故後、放射能についてもっと知りたいと思つた。」「五七年前にも、いまと同じように雨やお茶から放射能などということがあつた

のですね。」といった言葉がびっしりと書かれています。開館三五年を迎えた展示館には、そうしたたくさんの感想文やアンケートなどが保管されています。

九月二三日から来年三月まで、企画展として「船を見つめた瞳 命を思う『ことば』の展覧会」を開催します。修学旅行の事後学習で作った壁新聞や寄せ書きのほか、毎日交代で来館者と船を見つめてい、ボランティアスタッフの日誌からみる「展示館の風景」や、会期中に訪れた人のメッセージなど、時間の経過とともに、館内に「ことば」があふれていく予定です。

九月二三日久保山忌には、市民による催し、企画展オープニングとして鈴木一穏によるダンス・パフォーマンスが開催されます（詳細10面）。ぜひご来館ください。

市民講座

竜丸からみえてきた
放射線とヒトとのつきま

安斎育郎

六月に開催された市民講座
「ヒトと地球と放射線」から、
安斎育郎さんによる講演記録
を掲載します。

(新理研映画 一九五四年)
が上映されました。(文責・編集部)

端集

17

安斎さんは放射線防護学が

ミュー・ジアム名誉館長、現在
は安斎科学・平和事務所を主
宰しています。

機器開発の歴史的経緯と背景をみていくと、広島・長崎への原爆投下にしても、アメリカだけの責任というよりもむしろ、武力による戦後世界を支配しようとした政治思想の対立する中で、作られたばかりの原爆が慌しく使われたということがわかります。

そこで、潜水艦などに積み込むはずだった原子炉を急ぎよ陸揚げして、原発を作ったんですね。ですから安全性について技術的にひとつひとつ積み上げながら、「平和利用」としての原子力を開発していくたというよりも、ソ連とのせめぎ合いの中で、慌てて作つたというのです。

日本だけでなく台湾や中国、東南アジアで獲れる魚にも汚染が広がっていくでしょう。さきほど観た映画『死の灰』にもあつたように、ビキニの死の灰は太平洋じゅうにまわってしまったのですから。

フクシマヘ

三月一二日には原子力安全
保安院も原子力安全委員会も
計算しましたが、発表しなか
った。発表すると混乱を招く
というのです。住民をバカに
して、國民を愚民視してい
る。状況をちゃんと説明して、

そして放射能の広がりを予測できる計算プログラムが、その名も「SPEEDI（スピード）緊急迅速放射能影響予測ネットワークシステム」。

能で汚染された。二度目は、一九八六年四月二六日のチエルノブイリ原発事故。遠くソ連で起こったことでありながら、放射能は国境を越えて広く飛散してしまった。

そして三度目が「フクシマ」です。今度は外国ではなくて、日本で起こっている。

しかも、雨によつて、陸地

咲いているけれど、人っこ二
人いない。時折り主に捨てら
れて痩せこけた犬が、人恋し
げにやつてくる。そういう世
界です。



マジックも飛び出した安斎さん

戦後米国は、核開発競争に奔走していきます。この時代に「原子力の平和利用」というのが重なっていきます。

ビキニの水爆実験「ブラボー」は、広島原爆の一千倍、一五メガトンという爆発力を作りだしました。ソビエトはこの数年後には五〇メガトンの水爆実験をおこなっています。一方原子力発電はソ連が

さて皆さん気にしているのは、いまの福島第一原発事故の結果、夏から秋にかけて放射能汚染が広がっていく可能性についてだと思います。

日本人が「食卓の放射能汚染」を気にした最初は、ビキニ事件です。マグロが放射

込むはずだった原子炉を急きよ陸揚げして、原発を作ったんですね。ですから安全性について技術的にひとつひとつ積み上げながら、「平和利用」としての原子力を開発していくたというよりも、ソ連とのせめぎ合いの中で、慌てて作つたというものです。

東南アジアで獲れる魚にも汚染が広がっていくでしょう。さきほど観た映画『死の灰』にもあつたように、ビキニの死の灰は太平洋じゅうにまわってしまったのですから。

卷之三

る。状況をちゃんと説明して、方針を明確に出せば混乱なんてないんです。それなのに同心円。こんなのが書くなら百億円のプログラム使わなくても、百円ショップで買ったコンパスでも書ける。

原発三〇キロなんだから大丈夫なんだ」と思われた。放射能がたなびくと直角の方向に逃げなくてはいけないので、情報が発表されていない。その結果、放射能と共に行動してしまった人もいるのです。

非科学的、非現実的な行政の実態の一つです。

原発事故はまだ終わっていない、進行中です。近隣の都市では、放射能レベルが低くなっているか横ばいという雰囲気が作られていますが、原発事故の「本体」は依然として危機はなくなっています。

私は事故直後からマスコミの取材に対し、「隠すな」「嘘つくな」「意図的に過小評価するな」と言い続けています。皆さんもぜひ言い続けてください。結果としても、わざとするのはいけない。

もつと低く より低く

放射線防護学の考え方では、放射線は被曝しないにこしたことはない、というのが基本です。そして放射線源を取り除くというのの第一原則です。どうしても取り除けない

場合には、自分と放射線源の間に遮蔽体を置く。放射性物質から距離をとる。放射性物質と接觸する時間を短くする。遮蔽・距離・時間というのが原則です。

と弁護士からもよく聞かれます。これから原発の訴訟を起こすにあたり、文部科学省が三・八マイクロシーベルト／時で線をひいたが、科学者からみて、毎時どれくらいの量ならば安全かを言ってほしい

といふことなのですが、私は絶対に言いません。

浴びないにこしたことはないわけですから、市民の立場でいえば、「より低く」といふことです。これより低ければ安全ですなんて言う立場にはありません。

それを言う立場にあるのは行政当局で、出てしまった放射線はひとつこめられない。そこで生産をしている人がいる以上、生産物を出してもいいかという判断を行政がしなくてはならないから、線をひいて「これから上のレベルは絶対に市場に出さない」という暫定基準を決めたわけです。

これは行政の役割ですから、いつたん決めた以上守つてもらうしかない。

しかし、「もつと低くできることか」と要求し続けるのが市民の役割です。

急性放射能障害

放射線にはふたつタイプの障害があります。

一度にたくさん浴びると、急性放射能障害をおこします。人によって感受性が違いますから、幅はあります。

一〇〇〇ミリシーベルト以上を一度に浴びると誰でも必ず急性症状が出るので「確定的影響」と呼びます。

四〇〇〇ミリシーベルトを浴びると半数の人が一ヶ月で死ぬ。七〇〇〇ミリシーベルト浴びると全員が一ヶ月以内に死ぬ。広島・長崎の被爆者の中にはそのようにして死んでいいた方もいっぱいいるわけです。

宝くじと放射線当たりクジの共通点はふたつ。

まず、一枚買うより一〇枚買う方が当たりやすい、ということ。たくさん買えば買うほど当たりやすい。放射線も、たくさん浴びれば浴びるほどガンになりやすい、という点です。

ところが幸いなことに、フ

クシマではそのように一度に当たるが、一〇〇枚買つて当たるが、当りは当たる。放射線も一ミリシーベルト浴びて白血病にならうが、

生涯有効の当たりクジ

これは「確率的影響」といわれているもので、低い被曝は低いなりの確率でおこつてくるといわれているものです。

これをわかりやすいとえで、私は「ガン当たりクジ的影響」と呼んでいます。

放射線を浴びると、将来ガンや白血病になる危険性を背負うことになるわけですが、それは「ガンが賞品である宝くじを買うのと同じ」ということがいいたいわけです。

宝くじと放射線当たりクジの発売は賞品の発送をもつてかえさせていただきます。二〇年前にお買い上げの放射線ガン当たりクジは、このほどめでたく肺がんに当選したのでお送りします」っていきなり送りつけてくるんです。ですからこんな宝くじ誰も買いたくない。にもかかわらずくじをばらまいた、買いたくもないのにそれを何百枚か買わされた可能性がある。しかもこれは普通の宝くじと違つ

一〇〇ミリシーベルト浴びて白血病にならうが、白血病の酷さは同じ。一ミリシーベルトの白血病は、一〇〇〇ミリシーベルトの白血病より百分の一軽くすむなんてことはありません。

ところが決定的に違うのは、宝くじは「当選発表日」というのが決まっていて、はずれていれば捨てることができる。ところが、「放射線ガン当たりくじ」で、当選発表日が決まっておらず、一回当たると、生涯捨てるわけにもいかないんです。しかも「当選の発売は賞品の発送をもつてかえさせていただきます。」といふ。ある日突然「あなたが二〇年前にお買い上げの放射線ガン当たりクジは、このほどめでたく肺がんに当選したのでお送りします」っていきなり送りつけてくるんです。

さらに、一枚買って一億円たくさん浴びた人が出ているわけではない。ここでなんとなく云うと、あなたが当たるが、当りは当たる。放射線も一ミリシーベルト浴びて白血病にならうが、



放射能試験のヤシ林

ビキニの海は
あくまで青く…

ビキニ島を訪問した共同通信の 錦織信子記者レポート

も同行。約二時間半後、雲の切れ目から、真っ青な海に浮かぶビキニ環礁が見えてきた。

太陽を浴びてキラキラと輝くエメラルドグリーンの海に米国の水爆実験「ブラボー」（一九五四年）でできた濃紺のクレーターが口を開けていた。この美しい海に、なぜ…。カメラのシャッターを切りながらラの憤りが込み上げてきた。

「レーダーが壊れているから
目視で行きます」。

トベー・エア・マーシャル

ロペラ機で八月二七日午前、大雨の中、マーシャル諸島の首都マジユロを飛び立つた。元島民

ラックを用意し、島を案内してくれた。日差しが強い。舗装されていない外周道路の両側は、ヤシの木やタコノキなどの大きな木々がうつそうと生い茂り、家の跡すらない。

同行したビキニ島出身の元医師ジエンドリック・レビティ

た。道端から草むらをかき分け、どんどん奥に入していく。パツと視界が開け、広い更地が現れた。核実験で家は吹き飛び、残骸も米軍が焼き払ってしまった。

消された故郷

いつもにこにこしている温厚なレビティカスさんから、笑顔が消えた。何度呼び掛けても

などゴミが散乱。朽ちたコンクリートがはがれ落ち、さびた鉄骨がむき出しになつていた。

観光開発や建物の保守管理を担当する人が数ヶ月交代で常駐。「今のビキニ島の人口は六

答へず、険しい表情で立ち尽くしている。ただならぬ様子に、それ以上、声を掛けることはできなかつた。足を投げ出して地面に座り込み、雑草を抜いたり、小石を拾つて放つたり。大きなタコノキの下では、寝転んでじつと木の方を見上げていた。

幼いころ、家族や友だちとよく遊んだ場所。木に登つた後は、近くの海岸で泳いだといふ。「この土地は私と兄弟のもの。でも、汚染されていて、住むことはできない。どうすることもできない」と悲しげなレビティカスさん。ビキニ環礁自治体評議会議員のヒントン・ジョンソンさん（45）は「マジユロでは、土地の所有者が厳格に決まっていて、私たちはお金を出して借りるしかない。ホームレスのようだ」とため息をついた。

茂みの中に、草や木に覆われた核実験時の観測施設「バンカーハウス」がひっそりと残されていた。高さ五メートル程の四角い部屋に分かれ、壊れたバケツ

ヤシの林と実験農場

人」と案内人が笑つた。海岸沿いにある平屋建てのオフィスでは、冷蔵庫に「DOE M a j u r o」と書かれた箱が数個。調査用のヤシの実が入つてゐる。壁にはビデオテープがぎりしおり。「古い映画を見るのが暇つぶし」と関係者。「家族と離れるのはつらいけど、養つていいが、食料は外から運んでくるし、長期滞在しないから大丈夫」と言う。

数カ所で空間放射線量を測ると、毎時 $0\cdot1\sim0\cdot4$ マイクロシーベルト程度。二時間半の滞在で、個人線量計の累積線量は0だつた。だが、島で取れるものは食用禁止。予算が足りず、除染は滞つたまゝ。帰島のめどはたつていない。福島のことなどを思わずにはいられなかつた。

結局、飛行機のレーダー機能していた。パイロットは「つけたり消したりを繰り返したら、つくようになつたんだよ」とこともなげに言つた。

(にしこり のぶこ 共同通信社記者)

ヤシの林と実験農場

ヤシの林と実験農場

人」と案内人が笑つた。海岸沿いにある平屋建てのオフィスでは、冷蔵庫に「DOE M a j u r o」と書かれた箱が数個。調査用のヤシの実が入つてゐる。壁にはビデオテープがぎりしおり。「古い映画を見るのが暇つぶし」と関係者。「家族と離れるのはつらいけど、養つていいが、食料は外から運んでくるし、長期滞在しないから大丈夫」と言う。

数カ所で空間放射線量を測ると、毎時 $0 \cdot 1 \sim 0 \cdot 4$ マイクロシーベルト程度。二時間半の滞在で、個人線量計の累積線量は0だつた。だが、島で取れるものは食用禁止。予算が足りず、除染は滞つたまゝ。帰島のめどはたつていない。福島のことなどを思わずにはいられなかつた。

結局、飛行機のレーダー機能していた。パイロットは「つけたり消したりを繰り返したら、つくようになつたんだよ」とこともなげに言つた。

(にしこり のぶこ 共同通信社記者)

|| 本の紹介 || 評者 山本義彦

『原水禁署名運動の誕生』凱風社 丸浜江里子著



本書には、深い感動を持つて読ませて頂いたことを先ず申し上げたいと思います。ではどうしてか？まず著者が学校教員の経験から関心を寄せた戦争体制賛美の教科書の持ち込みを決めた教育委員会の在り方への疑問を出発点として、どうして「杉並」という歴史に残る、偉大な原水禁運動の発祥の地で、このような事態を招いたかに執着したことです。

その際、丸浜さんは、硬直的な「平和運動論」的発想の視点からではなく多様な人々の生き方を丁寧に見つめ、尊重する社会啓発運動を進めて

いた原水禁署名運動指導者で公民館長であった安井郁といふ人物を捉えました。そして、杉並の戦前以来の「旧」住民である魚商ほかの保守的部分と消費組合運動以来の伝統を持つ知識層的な「新」住民の相互理解を大事にした運動を束ね組織することに腐心し、成功に導いた点を捉えたことです。

以上のようない歴史的解明を、丸浜さんは驚くべき「足で稼ぐ」という多くの関係者への聞き取りを敢行された。そのエネルギーには驚かされます。

丸浜さんは特に第五福竜丸事件を受けた日本人の目線の変化をどう捉え、焼津、静岡県という直接の被災者を抱える場からの種々の決議、とくに吉永村の青年の運動を記述されたのは、焼津市史や静岡県史、静岡大学史をして、記述に盛り込んだ私ども

しても、まずは敬意を払ったのです。解説された安井の組織者としてのこのようない視点は、福島原発事故以来の日本

松井英介著

『見えない恐怖 放射線内部被曝』旬報社



社会にも最も必要とされるのではないでしょうか？丸浜さんは読者にこれを問いかけているように思います。

この点で評者は、松井さんが、内部被曝の重大性をきちんと捉えて分かり易く述べ、改めて多くの示唆を受けました。「内部被曝」に関しては、ヒロシマ、ナガサキのヒバクシャや、ビキニ水爆実験による漁民と実験場周辺の人々の被災、チエルノブリ事故、九〇年代以降のイラク戦争でのアメリカによる「劣化ウラン弾」の被曝者を重視すべきだと言います。その観点から

情報」が種々の議論をよんできたのか。第一の問題は、放射線の被害を人体実験では行為ないという根本問題があり、「科学的認識の一貫性」を図ることが難しく多くの病症例によって確認する外ないといふことです。そのためには「情報」が種々の議論をよんできたのか。第一の問題は、放射線の被害を人体実験では行為ないといふことです。そのためには「情

報をきちんと知つて、その上で恐れずに」という言葉が実は言うほどに容易ではありません。第二に政府の事故以来から、人体への影響をめぐつてメディアで報道されるようになって、人々の中では「不安」と「専門家」による「安全」、「大丈夫」の認識ズレが極めて大きいのです。評者は原発元自治体と連携しこの事故の経緯と教訓を考える日々

第四に多くの「専門家」やメディアが外部被曝は述べても重大な病症を招く内部被曝の問題を無視してきたことではないでしょうか？

なぜこうした「科学的知識

本書から読み取れるのは、「正しく知つて脅威を感じ、いかにこれを克服するシステムを人間社会が獲得するべきか」と言うことであろうと思いますが、どうでしょうか？（やまもとよしひこ 静岡）

大学名誉教授／第五福竜丸平和協会理事）

第五福竜丸をめぐる人々の心を… 地元焼津で尽力された飯塚利弘さん



安田和也

騒ぎとなると、新一年生に福竜丸事件について見聞したこと、考えたことを作文に書こうとよびかけています。

無線長の久保山愛吉さんが亡くなり見舞金が払われるなど、それまでの同情は羨望へと変化し、生徒の親たちから妬みの言葉が聞かれるようになります。しかし生徒たちは父を奪われた娘たちの悲しみに寄り添い、親たちの言動に

第五福竜丸平和協会顧問で長らく評議員をつとめられた焼津の飯塚利弘さんが八月九日、亡くなられました。八一歳でした。

飯塚さんは静岡大学を卒業、新任教員として焼津中学に赴任した最初の学年も終わるかという三月一日に第五福竜丸の被ばく事件がおこります。生徒たちのなかには漁師や水産関係の子弟が多く、生徒らとともに事件に向き合うことになります。

飯塚さんは、事件の起きた直後的新学期（54年4月）、焼津が福竜丸の被ばく、乗組員の放射能症、原子マグロなどで大

へのとりくみなど、焼津の教師としての飯塚さんの活動が続けられていきました。

それは、古くからの因習と漁師の共同体意識の根強い町のなかで、「やつかいな事件」「原爆マグロを捕つてきて迷惑をかけた」「病気を治してもらいお金までもらつた」などと誰かれとなくささやかれて、事件について語ることが憚れるような風潮が作られる下で、地域社会の問題や核の被害と核軍拡など広い視野からビキニ事件を掘り起し、教育を通じて伝えようとする教員たちへの強い反発や風当たりとの粘り強いとりくみでもありました。

こうしたなかで飯塚さんは、夫を奪われた久保山すずさんや遺児のみや子さんら家族に何くれと声を掛け、厚い信頼も得て、九三年には『死の灰を超えて—久保山すずさん道』（かもがわ出版）を、〇一年には親類や旧友などの丹念な聞き取りによる『久保山愛吉物語』を著すなど、第五福竜丸被災事件をめぐる人々の貴重な記録を残しました。

第五福竜丸の保存の運動で吉永村での水爆実験反対署名運動の取り組みや被ばくから数か月後に静岡大学生と高校生がとりくんだ、漁師と婦人たちへのアンケート調査「おもづける会」活動の資料などは貴重なものです。

展示館ボランティアの会の焼津行では二度ご案内くださいり、事件が古い漁師町の人々に与えた影響や心の機微を伝えてくださいました。

飯塚さんの最初の著作『私たちの平和教育—「第五福竜丸」「3・1ビキニ」を教える』（民衆社1977）に「焼津の教師として」の一節があります。引用して飯塚さんへの哀悼いたします。

私は学校をとばされ、行くさきざきで専科の社会科はけつして受け持たされることがなかつた。私に与えられた教科は、英語であり体育であった。それでも私はわざかな手がありをさがしては、学級新聞や教科の中で、ビキニを語り平和を考えあつてきた。平和を語るものは、孤立させられ、とばされる。運動もなかなかひろがらず、実践もふかまらないという悩みを、私たちはいつもかかえてきた。

しかし、くりかえしていくが、焼津は世界ただ一つの水爆被爆の第五福竜丸のふるさとである。その教師が平和を教えず、原水爆の禁止を語らないならば、「原水爆の被害者は私を持つて最後にしてほしい」という久保山さんの痛烈な言葉の重みを、誰が子どもたちに教えるのであるか。

激しい思いを胸に、飯塚さんは、いつも穏やかに諭すような静かな焼津弁で語りかけていました。※写真は〇五年3・1ビキニ記念のつどいでの講演

— 私や仲間のごく普通の（教育）実践さえ、保守的な焼津ではアカよばわりされ、県当局からは白眼視されてきた。忘れもしない、ビキニの実践にうつった翌年に、

（第五福竜丸平和協会事務局長）

七五年八月一日付で協会初出版のハンフの表紙。編集には三井周一、深井平八郎、若島幸作、小沢謙吉が当たったことを、広田事務理事が記している。発行・平和協会。

車載⑩

晴れた日に 雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村 茂雄

それらの事業が踵を接するようにして結実したのです。

「三羽鳥と一姫」と言われた
三井周二（建設従業員組合）、
深井平八郎（石川島播磨）、
若島幸作（区職労）、青木（旧姓古泉）佳子（教員）さんた
ちでした。

田の両専務理事、常任委員の田沼肇さんが参加しました。しかし、都労連に置かれている保存委員会の事務所は机が一つあるだけ、仕事の半ばは、三羽鳥と一姫、小沢さんに負

院で「久保山愛吉氏追悼会」が持たれていました。

五福竜丸展示館の開館を前に、記念すべき三つの祝賀行事が行われています。

江東区民に夢の島に福竜丸が放置されていることを知らせ、区民参加を考慮しながら江東の運動を先導するのは、組織の組合員や教員有志、木場の職人さんなど、区民の参加も今まで以上でした。

まうのもこの人たちでした。この区民中心の活動の経験からビキニ事件当時のことをや第五福竜丸乗組員のことなどを知らせるわかりやすい出版物の必要を痛感していまして。そのために、ビキニ事件に関連する誌紙や新聞の切り抜きを続けていたのです。

を決めます。この五月には、
地上に固定された第五福竜丸
周辺に仮柵が打ち込まれ、見
張り小屋も建てられていました
(この小屋は東陽町から自
転車で毎日通い、船の監視を
つづけてくれるのが、元筏師
の嶋田轍之助さんです)。九
月四日東大病院からトラック
で運ばれた資材・資料は、見

付行為はその目的を「ビキニ
水爆被災船・第五福竜丸を永
久に保存し、併せて原水爆被
害の諸資料を収集、保管、展
示する——」としていました。
明けて七四年はビキニ被災
二〇周年。平和協会は寄付行
為の目的に沿つて記念事業に
「ビキニ関係資料の収集」と
「出版」を掲げます。「三羽鳥

井、深井、若島、青木さんたちの作業に押されるようにして、第五福竜丸保存委員会が資料収集のための懇談会（第一回）を開いたのは七二年四月二十五日でした。メンバーは、前記の四人に加えて、小沢謙吉さん（東京原水協事務局）保存委員会からは、神崎、広

張り小屋に隣接して建てられた小屋に一時的に保管されることになります。

七三年九月二三日には、久保山すずさんから、愛吉さんの船員手帳、無線従事者免許証などの遺品や、家族への慰問・弔問の手紙などが寄贈されます。この日、焼津・弘徳

と「姫」の要望は、協会のメイントップ事業となるのです。この「格上げ」は、活動家の要望を生かしつつ、ビキニ事件の全体像を解明する資料の収録など編集内容、また編集実務体制、資金の調達などの問題を抱えながら進行することになります(以下次号)。

寄贈資料の紹介



第五福竜丸が、東京水産大学（現・東京海洋大学）の練習船「はやぶさ丸」だった時代の航海報告書3年分が井上清・東京海洋大学名誉教授から寄贈されました。この資料は品川の大学倉庫に保管されていたものです。5月12日、井上さんと同船・司厨長だった佐藤光次郎さんが来館され、当時のお話を伺いました。

ダンス・パフォーマンス 龍の声 Voices of Dragon

企画展「船を見つめた瞳」オープニングイベントに、コンテンポラリーダンサー鈴木一穂さんの創作パフォーマンス公演を行います。

鈴木さんは2005年より、東京浅草の土蔵・ギャラリーエフで、東京大空襲をモチーフにした作品を発表し続けています。

本作品は鈴木さんが見つめて続けて

きた第五福竜丸の航海がテーマ。船へのオマージュを捧げるとともに、核のない未来への航海を、参加者とともに創造します

日時 9月23日 午後7時より
会場 第五福竜丸展示館
参加費 2000円（定員80人）
*お申し込みはFAXかEメールで
第五福竜丸平和協会まで

本の紹介

「核の今」がわかる本

太田昌克 共同通信核取材班

本書は、日米核密約などを追及してきた共同通信・太田論説委員と取材班による「核」の今日を検証し考える一冊。09年4月のオバマ米大統領・バラハ演説は「核なき世界」への期待を高めたが、現実の核廃絶への具体的進展は容易ではない。歴史的衝撃となった「核の闇市場」、NPTの矛盾、核の傘、日米関係などからあぶり出す。決して核廃絶への希望を忘れてはならないだろう。（講談社プラスα新書）

まどうてくれー藤居平一・被爆者と生きる 大塚茂樹

著者は、岩波書店で原爆被爆者の証言記録などを手掛けてきた編集者。広

島で原爆により何もかも失い、原爆症を抱え苦しむ被爆者の救済に戦後早くから立ち上がり、やがて被爆から十年余、被爆者の全国組織結成とともに初代事務局長として、被爆者の結集と運動、政府への諸対策の要求活動に半生をささげた藤居平一の伝記。藤井の個人記録であるとともに、被爆者運動や核兵器廃絶を求めるその理念と歴史への理解も促す書。（旬報社）

FROM ABOVE 上空より
ポーレ・サヴィアーノ

広島・長崎・東京・ドレスデンと第五福竜丸の被害者のポートレート写真集。撮影者のポーレ・サヴィアーノは、アメリカのコマーシャル写真家。「戦争は苦しみしかもたらさない」「驚くべき勇気をもって、自分の人生を一変させた出来事を語ってくださった」「大切なのは、過去に学び、二度と同じ過ちを繰り返さないこと。それが、おなじ空の下に生きる僕たち、すべての者の務め」とのポーレの言葉がそのまま年輪を刻んだ被害者の表情に投影されている。短い体験者の言葉もリアルに迫る。（コンテンツ・ファクトリー）

海を渡ったヒロシマの人形
文・指田 和 絵・牧野鈴子

広島で被爆後、占領軍の米兵士に拾われ、アメリカの知人女性に贈られた人形が、再び広島に帰るまでの絵本物語。

人形の持ち主となった女性が、広島の持ち主がたどったであろう原爆の破壊と惨劇に心を寄せ、戦争で兄を失った自らの想いとも重ね合わせながら、核や戦争の悲劇を思う。著者が、国は異なると平和を求める心の交流の広がりを小学生たちに語りかける場面はそのまま読者へも向けられている。

60余年を経て帰ってきた人形は、いま広島平和記念資料館（原爆資料館）に所蔵されている。（文研出版）



第五福竜丸建造の船大工 西田繁三さん逝去

和歌山古座町（現・東牟婁郡串本町古座）の古座造船所で、1946年秋から47年3月にかけて第五福竜丸（前身・カツオ船〈第七事代丸〉）の建造にあたった8人の船大工の、最後の生存者だった西田繁三さんが、7月12日亡くなりました。89歳でした。

西田さんは、亡くなる直前まで船大工の仕事をつづけられ、国の重要無形文化財「古座獅子」の指導や河内祭の船の製作・補修なども手掛けていました。昨年3月には、第五福竜丸の建造にも使用した船大工道具を串本町に寄贈しました。2007年、企画展「船大工の技と仕事」では、建造当時の思い出を語る西田さんの音声資料（取材制作・和歌山放送）を展示しました。（写真は、04年7月に協会安田事務局長が訪問し撮影）